2023 年度 地域連携推進室
活動報告書

静岡大学 情報学部 地域連携推進室

2024 年 3 月 31 日

目次

1．室長挨拶 3
2．地域連携推進室の概要 4
地域連携推進室の目的・業務 4
2023 年度の構成員 4
3．2023 年度の情報学部における地域連携事業 5
高校生探究・情報コンテスト 5
情報学部公開講座 2023 6
アイデアソン＆データソン 2023 7
小中学生向けドローン教室 9
情報オリンピック日本委員会主催の地域密着型学習支援講習会「レギオ」 10
浜松 IT キッズプロジェクト 11
浜名湖弁天島における観光防災：地域住民や観光客へ WebGIS 活用を促すイベント展示 11
天竜浜名湖鉄道フォント制作プロジェクト 天浜線フォント ver.3[JIS 第一水準漢字含む]完成 12
学生のボランティア活動（浜松市立雄踏小学校） 13
学生のボランティア活動（浜松市立追分小学校） 14
浜松湖南高等学校との教育連携 16
浜松市と大学の連携事業 16
情報教育支援士実習への協力 18
文部科学省情報科オンライン学習会 講師 18
静岡県教育委員会主催 令和 5 年度小学校におけるプログラミング教育実践研修 19
高校教科「情報」シンポジウム 2023 秋 20
島田 ICT 教育シンポジウムでの基調講演 21
宮城県教育庁 情報化推進リーダー研修会 21
令和 5 年度第 2 回浜松市教育研究会（情報教育研究部）講師 22
六本木会議オンラインでの登壇（高等学校 情報科） 22
静岡大学教育学部同窓会浜松支部「教育を語り交流する会」 23
菊川市教育委員会 第 2 回 菊川市 ICT 推進委員会 23
静岡県 ICT エキスパート派遣事業: 浜松西高等学校中等部 科学部 23
静岡県 ICT エキスパート派遣事業: 静岡県立静岡中央高等学校 23
静岡大学・読売新聞連続市民講座 2023「社会を読み解く、社会を拓く」 24
数理・データサイエンス講座での講演 24
静岡県教育委員会主催 令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践

研修(基礎編) 24
静岡県教育委員会主催 令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践研修(発展編) 24
文部科学省 学校 DX 戦略アドバイザー事業への協力 24
第 8 回天竜の未来を考える若者会議にて授業調査の成果を発表....25
静岡県立川根高等学校の魅力化向上....25
高校への出前講義（愛知県立知立東高等学校） 26
浜松市楽器博物館における楽器の 3D モデル化と VR 空間における演奏体験支援プロジェクト 27
生成 AI を用いたかんざんじ温泉観光協会の情報発信支援プロジェクト 28
4．情報学部の地域連携科目....29
地域コミュニティ論/演習....29
情報・コミュニティ論/演習 29
家族福祉政策論 29
フィールドリサーチ 29
博物館実習 30
インタビュー・スキルズ 30
知的情報システム開発....30
情報学特別講義 I 30
わが街・浜松の市政 30
地域社会と情報 31

１．室長挨拶

地域連携推進室長
白井 靖人

今日の大学には、従来の研究・教育に加え、様々な面において地域の拠点として機能する、地域連携の機能が求められています。そうした中、静岡大学としての地域連携に加え、独自の立場から地域連携に取り組むべく、情報学部では平成 18（2006）年に情報学部地域連携推進室を設立しました。これまで、学部が立地する静岡県西部地区を中心とした学校や自治体、そして企業等と連携して様々な事業を実施してまいりました。

少子高齢化に人口減少が加わった今日、デジタル田園都市国家構想や DX（デジタルトランスフォメーション）など情報や通信を象徴する“デジタル”を冠した国家・社会の変革が叫ばれています。“デジタル”こそ、我々が築いてきた情報学の知見が生かされる領域であり、情報学部はそこでリーダーシップを発揮すべき立場にあります。しかし一方では、“デジタル”を基盤とする“AI”などの技術は、国際的な懸念を招く事態にもなっています。

これまでにも増して混迷を極める状況において、地域の調和の取れた発展を、“デジタル”の面から微力ながらもお手伝いすることが、地域連携における情報学部の使命です。その達成に向け、地域連携推進室は、地域に開かれた窓口として皆様のご要望やご意見に真摯に耳を傾け、自らのなすべきことを果たし、皆様とともに歩みを進めていきたいと考えています。是非皆様のお声をお聞かせください。どうぞ、よろしくお願い致します。

２．地域連携推進室の概要

地域連携推進室の目的・業務

本室は、平成 19 年の「学校教育法」改正により大学の目的に新たな使命が付加されたことに伴い、同法 83 条 2 項の理念を「地域連携推進室は、情報学部および総合科学技術研究科情報学専攻の教育力、研究力をもとに地域連携を推進することにより、地域社会の発展に寄与することを目的とする」と本室の規程に明示的に盛り込んでいます。

この目的の遂行のために、本室では次のような業務を行っています。

(1) 教員や学生が行う地域課題に取り組む活動の奨励と支援
(2) 地域連携に関わる活動の情報収集、および教員・学生への情報提供
(3) 教育研究成果を地域に還元するための公開講座等の企画と運営
(4) 市民団体、事業者、地方公共団体等からの地域連携に関わる相談窓口
(5) 全学の関連組織との相互連携
(6) その他、地域連携に寄与する事項

2023 年度の構成員

2023 年度の地域連携推進室は、下記のメンバーによって構成されています。

室長	教授	白井 靖人　（行動情報学科）
室員	教授	遊橋 裕泰　（行動情報学科）
	准教授	藤岡 伸明　（情報社会学科）
	講師	遠山 紗矢香（情報科学科）
室員（オブザーバ）	准教授	野口 靖浩　（情報科学科）
事務補佐員		本村 恵

３．2023 年度の情報学部における地域連携事業

高校生探究・情報コンテスト

高校生が学校の垣根を越えてお互いの問題意識を共有し、共に活動を進める仲間を見つける機会を提供するために、情報学部は 2023 年度より高校生探究・情報コンテストを開催しています。本コンテストでは、高校生の皆さんの探究の取り組みについて、互いに発表する・質問する・コメントするなどの機会を提供し、活動を更に発展させたり，学びを深めたりすることができます。

2023 年度はテクノフェスタにあわせて 11 月 12 日に開催され、静岡県内外の 12 校から 100 名を超える高校生が浜松キャンパスに集まり、39 件のポスター発表が行われました。大学教員、高校教諭、自治体の DX 担当者、大学生からなる審査員（18 名）の厳正な審査の結果、優秀賞 1 件、奨励賞 5 件、審査員特別賞 2 件などが選ばれ、情報学部地域連携推進室長より表彰されました。

優秀賞：量子コンピュータによる素因数分解アルゴリズムの研究

奨励賞：護身術は実際に窮地に立ったときに役立つのか（ほか 4 件）

ポスター発表の様子

表彰式後の記念写真

情報学部公開講座 2023

市民の方々に情報学部の文工融合型の研究と教育を広く知っていただくため、毎年 11 月に開催されるテクノフェスタにあわせて情報学部公開講座を開講しています。講義内容は、情報学部の文工融合教育をミニ体験できるように、情報学部の各学科の教員がミニ講義とパネルディスカッションを行い、聴講者の質問に答えます。

2020～22 年度は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、10～11 月にオンラインにてオンデマンド動画を配信しましたが、2023 年度は 11 月 11 日に対面で実施しました。テーマは「インフォマティクス変化の兆候」でした。現在、世の中の様々な分野でデジタルトランスフォーメーションが求められており、今こそインフォマティクス（情報学）の真価が問われています。本公開講座では、未来を予見させる若手研究者 3 名によるミニ講義とパネルディスカッションをおこない、インフォマティクスの変化の兆候を先取りしました。

【プログラム】

	ミニ講義①「情報学を軸とした分野間を横断する身体性認知研究の展望」 市川 淳　情報科学科・助教 （専門分野：身体性認知科学）
	ミニ講義②「ヘルスケアの個別化に向けた日常のウェルネスデータの活用」 金 鎭赫　行動情報学科・准教授 （専門分野：健康科学、健康情報学）
	ミニ講義③「社会的相互作用の研究から英語運用能力の効率的な強化を目指す」 中川 恵理　情報社会学科・講師 （専門分野：心理言語学、脳機能イメージング）
	パネルディスカッション モデレーター：遊橋裕泰　行動情報学科・教授 （専門分野：経営情報、マーケティング）

アイデアソン＆データソン 2023

■主催：静岡大学情報学部地域連携推進室

■共催：静岡県データ活用推進課、浜松市広聴広報課

■参加者：38 名（所属：情報学部、静岡文化芸術大学、浜松聖星高校）

■コーディネータ：市川博之氏（一般社団法人シビックテック・ラボ代表）

■日程

・5 月 20 日（土）アイデアソン

・7 月 1 日（土）データソン

■概要

(1) アイデアソン

「オープンデータを使って創造的な学生生活を送ろう！（Hack the student life with open data!)」というテーマでアイデアソンを開催した。シビックテックラボ代表の市川博之氏のファシリテーションのもと、e-Stat、RESAS、ふじのくにオープンデータカタログといったオープンデータについて学習した後、身近な生活課題の分析・解決にオープンデータを活用する方法についてアイデアを練り、駐輪場の利便性向上、落し物の返還を促すアプリの開発、

図書館利用状況の可視化システムの開発等にオープンデータを活用する方法について検討した。

(2) データソン

5 月 20 日のアイデアソンで提案された 8 つのアイデアについて、それぞれの実現に必要なデータを検証し、データの使用方法を検討した。最後に 8 つのアイデアとデータ使用方法について発表と質疑応答を行い、審査員（市川氏、静岡県・浜松市職員、本学教員）が審査した。審査結果は以下の通り。

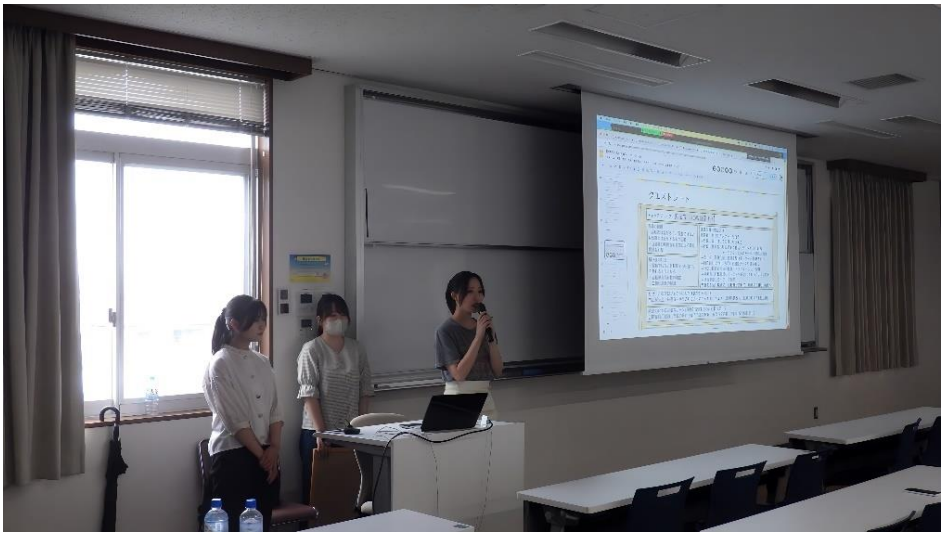
最優秀賞：「『自転車どこだっけ？』に終止符を　自転車ミッケ！アプリ」

・大学内（および浜松市内）の駐輪上を快適に利用するために役立つ機能を盛り込んだスマホアプリと情報収集・分析・可視化システムのアイデア。自転車にビーコン付き防犯登録シールを貼り、駐輪場にビーコンに対応するゲートやモニターを設置することにより自転車・駐輪場の情報をリアルタイムで収集・分析する。

特別賞：「あきらめないで！その、おとしもの　おとしもの返還アプリ」

・落とし物を交番に届けると地域で買い物に使える「善意ポイント」がもらえるアプリとシステムのアイデア。遺失物の届け出状況をオープンデータ化し，どの交番にどのような落とし物が届けられたかをアプリ上で確認できるようにする。

グループワークの様子



最終発表の様子

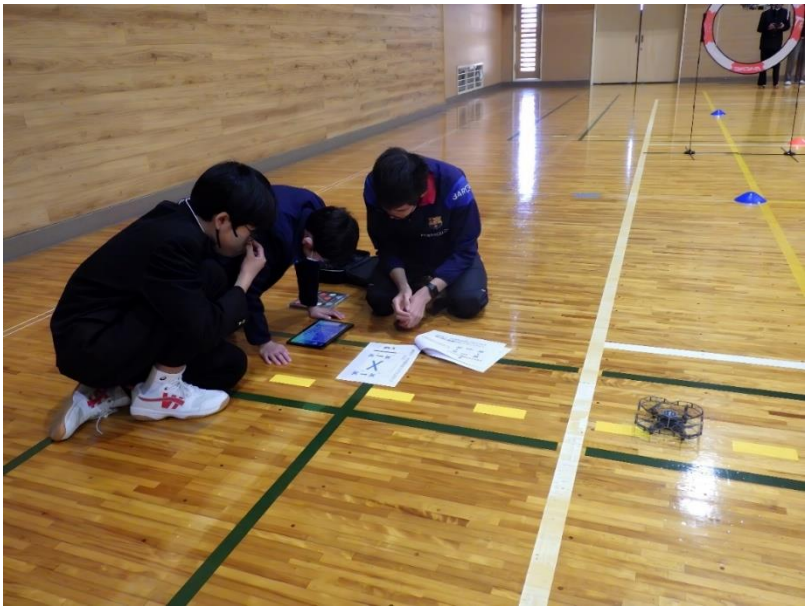
小中学生向けドローン教室

情報学部地域連携推進室は、浜松 RAIN 房（ものづくり理科地域支援ネットワーク）との共催で、小中学生を対象とするドローン教室「ドローンを知ろう、飛ばしてみよう」を 2023 年 11 月 23 日(祝)に浜松キャンパスで開催しました。

教室は 2 部構成となっており、前半はドローンの基礎知識を学ぶレクチャーを行い、後半は体育館でドローンの実機とシミュレーターを使ったフライト練習を行いました。講師は地域連携推進室の遊橋裕泰室員と藤岡伸明室員が担当しました。また、本学部の先端情報学実習「ドローン・プラクティス」を受講中の学生 5 名がアシスタントとして参加しました。

教室には 16 名の参加者（中学生 10 名、小学生 6 名）とその保護者・家族の計約 30 名が参加し、熱気あふれるイベントとなりました。

レクチャーの様子



ドローン・プログラミングの様子

情報オリンピック日本委員会主催の地域密着型学習支援講習会「レギオ」

レギオとは、情報オリンピック日本委員会が主催している、情報オリンピックの予選参加を目指す生徒に対して、プログラミングとアルゴリズムの基礎的なトレーニングを行うための講習会です。2009(平成 21)年度から開催されており、静岡大学情報学部では 2013(平成 25)年度から 2021(令和 3)年度の間、会場および講師を担当しておりました。

2022 年度は本学部の事情により開催できませんでしたが、2023(令和 5)年度はコロナ渦の状況が緩和されつつあり他会場が対面実施に戻す中、距離的な問題で参加できない受講者が一定数いることから、2 年前と同様にオンラインでの開催となりました。2023 年 8 月 4 日(金)に入門編、8 月 21 日(月)に初中級編を開催しました。地元の浜松工業高校を始めとした全国各地の 22 の中学・高校から申し込みがあり、4 日に 29 名、21 日に 35 名が受講いたしました。講師は、情報学部の小暮悟教授が担当しました。

本講座は 2017(平成 29)年から AtCoder 社の全面協力のもと、AtCoder を用いたオンラインジャッジシステムを採用しています。情報オリンピック日本予選においてはオンラインジャッジシステムとして AtCoder が採用されており、講習会においても予選で使うシステムを体験できるようにしています。今年度も一部の受講者はこちらの用意した問題を全部解いてしまうなど熱心に受講をしていました。

8 月 21 日(月)の初中級編終了後、情報オリンピック日本委員会理事長の筧捷彦先生からの受講生へのメッセージ動画を遠隔会議システムで再生・配信し、情報オリンピックへの参加が呼びかけられました。

浜松 IT キッズプロジェクト

浜松 IT キッズプロジェクトは、浜松市が「学術都市＋IT 都市」として発展するために、市の将来を担い、地域産業の発展に貢献する人材を育成するために行われています。静岡大学情報学部はこのプロジェクトを後援しています。本プロジェクトの運営やカリキュラムについて検討する「浜松 IT キッズプロジェクト推進会議」には、本学部の塩見彰睦教授が副座長として、遠山紗矢香講師が監事として参加しています。

・ 浜松 IT キッズプロジェクト ウェブサイト
https://itkids.jp/

浜名湖弁天島における観光防災：地域住民や観光客へ WebGIS 活用を促すイベント展示

情報学部情報社会学科 秋元研究室では 2018 年度から浜名湖に関する研究プロジェクトを進めており、様々な調査・分析を行ってきました。今回は 2023 年夏に実施した地域貢献の事例を紹介します。舞阪町観光協会などと協働して「はまなこ夏フェスタ 2023」(07/16、08/12）に参画し、WebGIS（情報ツール）を用いて住民や観光客が防災を学習できる「静大生と WebGIS で弁天島の防災について学ぼう！」（主催：静岡大学情報学部秋元研究室）を出展しました。教員監修の下、準備からゼミ生が主体的に検討し、事前の安全対策や機器トラブルなどについても繰返しミーティングを重ねました。展示内容は、観光時の防災や WebGIS についてポスターで学んだ後、弁天島を例として実際に地域を歩きながら各自のスマホで WebGIS を利用するツアーです。終了後は参加者・スタッフの交流も兼ねて、観光防災について振返ります。当日は子供から高校・大学生、社会人の方などにご参加いただき、高齢の方にも WebGIS へ積極的な関心を示していただきました。多くの方が居住地での防災を学習した経験はあるものの、観光時の防災は考えていなかったことが分かり、地域と参加者の安全向上に寄与できました。ご協力・ご参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

イベント会場となる弁天島の当日の風景

ポスターやスマホで WebGIS について学ぶ様子

熱中症対策しながら取組むスタッフ一同

参考 Web サイト：

- 舞阪町観光協会「はまなこ夏フェスタ 2023」HP
  https://www.bentenjima.net/
- 舞阪町観光協会「はまなこ夏フェスタ 2023」ポスター
  https://www.bentenjima.net/2023_chirashi.pdf?latest
- 参考：観光防災 WebGIS（研究室サイト下部より試作版を閲覧可）
  https://www.inf.shizuoka.ac.jp/labs/society_detail.html?UC=akimoto

天竜浜名湖鉄道フォント制作プロジェクト 天浜線フォント ver.3[JIS 第一水準漢字含む]完成

本プロジェクト（杉山岳弘研究室）は、「天竜浜名湖鉄道」に残されている、昔ながらの趣ある手書き看板の文字を文化財として捉え、デジタルフォント「天浜線フォント」として残し、地域活性化のため活用していくことを目的としています。2019 年度から企画を始め、天竜浜名湖鉄道株式会社と株式会社モリサワと連携して、2023 年 6 月 26 日に JIS 第一水準漢字を含む全 3322 字を収録した天浜線フォント ver.3 を公開した。天浜線フォントの普及・活用では、2021 年 2 月に普及のための小冊子である天浜線フォント帳を作成し、2021 年度の夏に、さらなる普及と活用を目指して、キャンペーンとして「天浜線フォント　夏まつり 2021」を開催し、2022 年度には、地域活性化のための天浜線フォントカレンダーを制作して配付した。2023 年 10 月 10 日までに天浜線フォントのダウンロードは 2 万 5 千件を

超えて、多くのユーザに使われています。

なお、本事業は令和 2〜4 年度の地域連携応援プロジェクトの採択事業です。また、先端情報学実習の一環でもあります。

新聞報道：

- 2023 年 6 月 28 日　中日新聞（浜松遠州版）掲載，天浜線フォント 3322 文字 静大生プロジェクト 作業 4 年完成

天浜線フォント Web ページ：http://www.hama365.info/tenhamasenfont/

天浜線フォント完成プレスリリースの様子

学生のボランティア活動（浜松市立雄踏小学校）

静岡大学情報学部では、専門であるプログラミングや ICT 活用の知見を活かして、地域の学校でボランティア活動を行っています。2023 年度は 7/13 と 10/5（9/21 は感染症対策のため急遽とりやめ）に浜松市立雄踏小学校を訪問し、ボランティアの学生 11 名が初心者クラスと経験者クラスに分かれて、パソコンクラブの児童約 40 名に対して、1 人 1 台端末を活用したプログラミング体験を提供しました。

活動の様子（初心者クラス）

活動の様子（上級者クラス）

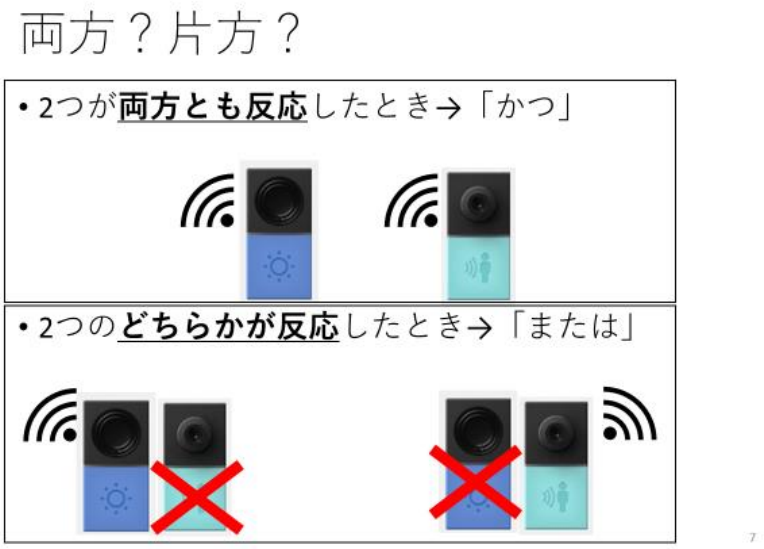
学生のボランティア活動（浜松市立追分小学校）

2024 年 1 月 30 日に、浜松市立追分小学校にて、算数科プログラミング体験授業および理科プログラミング体験授業を開催しました。本体験授業では浜松市立追分小学校 5 年生

(28 名)を対象に、遠山室員が授業を行い、学生ボランティア合計 5 名が児童の支援を行いました。

また、同日に、センサーを用いた理科のプログラム体験授業を開催しました。本体験授業は 6 年生 2 クラス（20 名、21 名）を対象に、遠山室員が授業を行い、学生ボランティア 2 名が児童の支援を行いました。6 年生対象の授業では、教材として MESH を使用しました。

・ MESH ウェブサイト
https://meshprj.com/jp/



6 年生向け授業で使用したスライドより

児童に寄り添って支援する大学生（写真左）

浜松湖南高等学校との教育連携

静岡大学情報学部は静岡県立浜松湖南高等学校と連携協定を締結しています。2023 年度は、授業体験、研究室見学、サークルが実施した講座への参加、の 3 つを実施しました。

10/14 の授業体験では、情報科学科 小暮悟先生の協力を得て、1 年生向け「プログラミング入門」の聴講、および演習体験を行いました。10 名が参加されました。

12/21 の研究室見学では、遠山室員の研究室学生が卒業研究でおこなっている研究の説明(実験体験を含む)を行いました。9 名が参加されました。

サークルが実施した講座では「プログラミングサークル SZPP」が開催したプログラミング講座に、1 名が参加されました。

プログラミング演習体験の様子

VR ゴーグルを用いた実験を体験する様子

浜松市と大学の連携事業

浜松市と大学の連携事業の一環として、プログラミングサークル「SZPP」のメンバーが、中高生を対象とした「Scratch で競技プログラミング」講座を、10/29 に浜松市高台協働セ

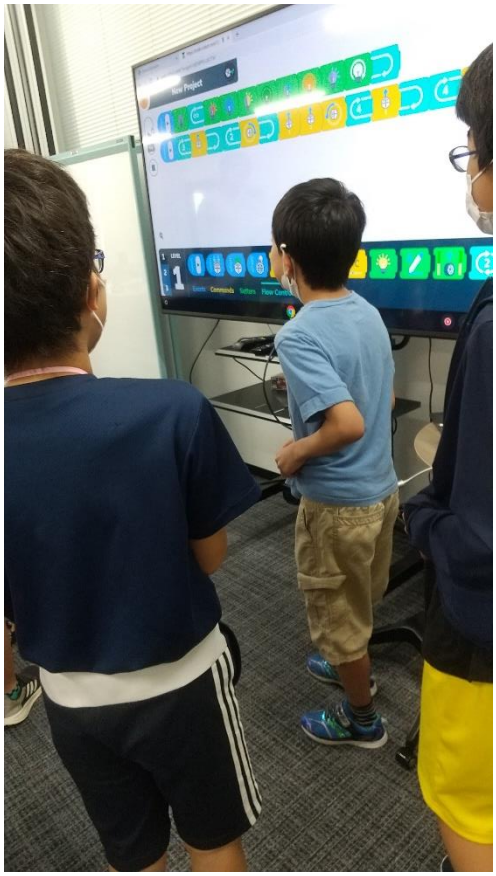
ンターで実施しました。講座には中高生 7 名が参加されました。また、当日の様子を 2024 年 3 月 1 日に行われた「浜松市と大学との連携事業成果報告会」にて発表しました。

大学生が参加者と関わる様子

講座のチラシ

情報教育支援士実習への協力

2023 年 8 月 5 日に、九州工業大学が主催する「情報教育支援士実習」の講師を遠山室員が務めました。オンラインでの事前実習には、「情報教育支援士」の資格取得を目指す 7 名が参加されました。また、8 月 26 日に行われた対面実習では、同 7 名のほか、教育対象者として児童 14 名が参加されました。



実習に参加した児童の様子

文部科学省情報科オンライン学習会 講師

2024 年 2 月 19 日に、文部科学省主催の高等学校情報科オンライン学習会 第 9 回にて講師をつとめました。参加登録者は約 300 名でした。遠山室員は「豊かな学びを実現する情報 II の探究」というタイトルで講演を行いました。

- 文部科学省 Web サイト
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00040.html

オンライン学習会フライヤー

(https://www.mext.go.jp/content/20240123-mxt_jogai01-100013301_1.pdf)

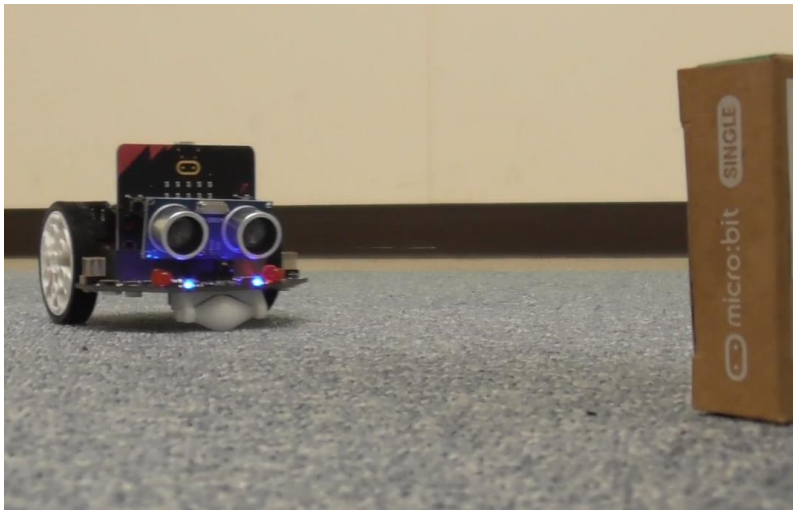
オンライン学習会で説明する遠山室員

(https://www.youtube.com/watch?v=cFMZ7OLIGxw)

静岡県教育委員会主催 令和 5 年度小学校におけるプログラミング教育実践研修

2023 年 8 月 21 日に、静岡県総合教育センターにて行われた、静岡県教育委員会主催の「令和 5 年度小学校におけるプログラミング教育実践研修」で遠山室員が講師を担当しました。本研修には 8 名が参加されました。小学校におけるプログラミング教育について演

習をまじえた研修を行いました。



研修で使用したロボット教材の解説動画より

高校教科「情報」シンポジウム 2023 秋

2023 年 10 月 29 日に開催された、高校教科「情報」シンポジウム 2023 秋の運営に関わりました。本シンポジウムは工学院大学新宿キャンパスでの対面参加のほかオンラインでも配信されました。約 300 名の方に参加登録をいただきました。主催は情報処理学会初等中等教育委員会でした。

シンポジウム web サイトより

(https://sites.google.com/a.ipsj.or.jp/ipsjps/events/Joshin23aki)

島田 ICT 教育シンポジウムでの基調講演

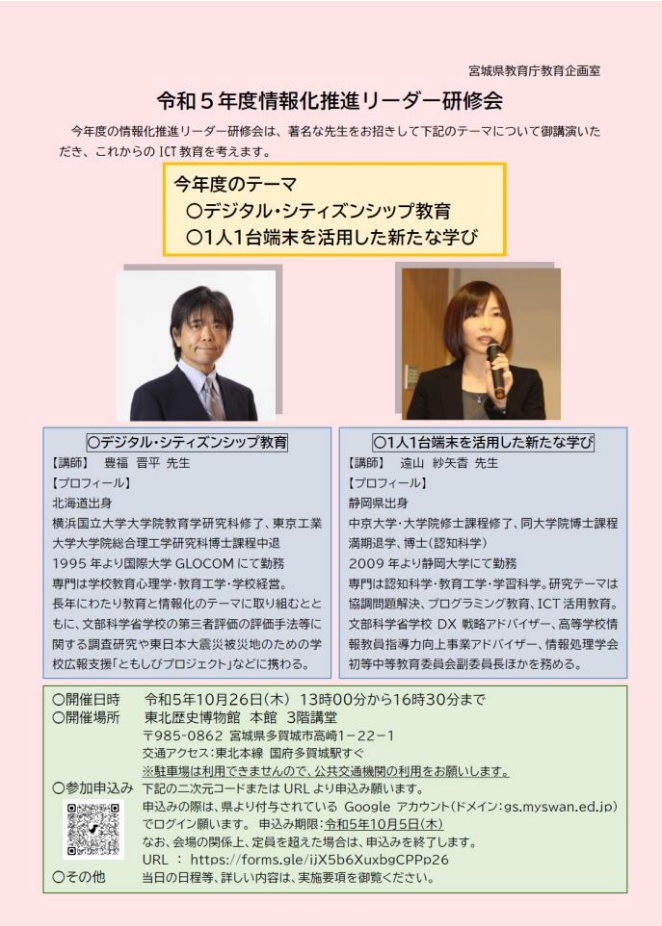
2024 年 2 月 15 日に、オンラインにて、「島田 ICT シンポジウム」で遠山室員が基調講演を行いました。シンポジウムは島田市の C-BASE とオンラインとのハイブリッド開催で、約 30 名が参加されました。遠山室員は「ICT はいかに学び方の転換を支えるのか」というタイトルで講演を行いました。

島田市 Web サイトより

（https://www.city.shimada.shizuoka.jp/gyosei-docs/shimada-ict-symposium.html）

宮城県教育庁 情報化推進リーダー研修会

2023 年 10 月 26 日に、東北歴史博物館（宮城県多賀城市）にて行われた、宮城県教育庁主催「情報化推進リーダー研修会」で遠山室員が講演を行いました。研修会には約 100 名の先生方が参加されました。遠山室員は「情報教育は学び方を変えるのか」というタイトルで講演を行いました。



研修会案内パンフレットより
（宮城県教育庁 作成・掲載許諾済）

令和 5 年度第 2 回浜松市教育研究会（情報教育研究部）講師

2023 年 8 月に、浜松市立中川小学校にて、浜松市教育研究会情報教育研究部主催の令和 5 年度第 2 回浜松市教育研究会で、遠山室員が講演を行いました。本研究会には約 140 名が参加されました。遠山室員は ICT を効果的に活用した授業改善のヒントについて講演を行いました。

六本木会議オンラインでの登壇（高等学校 情報科）

2023 年 5 月 9 日に、オンラインにて開催された「六本木会議オンライン＃59」に遠山室員が登壇しました。本会には約 50 名が参加されました。

https://roppongi-kaigi.org/topics/2799/

また、上記イベントを受けて登壇者らにて議論した成果が、提言書「すべての人に「情報 I」の内容を！DX-のスタートラインとしての国民的素養」としてまとめられました。

この提言書（ドラフト版）に対する意見を広く聞くことを目的とした会は、2024 年 1 月

25 日にオンラインにて「六本木会議オンライン＃72」として開催され、遠山室員が登壇しました。本会には約 50 名が参加されました。

https://roppongi-kaigi.org/event/2849/

会議で発言する遠山室員

(https://roppongi-kaigi.org/topics/2799/)

静岡大学教育学部同窓会浜松支部「教育を語り交流する会」

2023 年 10 月 13 日に、浜松市教育会館にて行われた、静岡大学教育学部同窓会浜松支部主催「教育を語り交流する会」で遠山室員が講演を行いました。本会には約 60 名の学校関係者の方が参加されました。遠山室員は「ICT 活用の新たな展開－ChatGPT を良きパートナーにする子どもを育てるには－」というタイトルで講演を行いました。

菊川市教育委員会 第 2 回 菊川市 ICT 推進委員会

2023 年 10 月 30 日に、菊川市中央公民館にて行われた、菊川市教育委員会主催「第 2 回菊川市 ICT 推進委員会」で遠山室員が講演を行いました。本会には約 20 名の先生方が参加されました。遠山室員は「小中を通したプログラミング教育や情報活用能力の育成」というタイトルで講演を行いました。

静岡県 ICT エキスパート派遣事業: 浜松西高等学校中等部 科学部

2023 年 7 月 26 日に、浜松西高等学校中等部にて、静岡県 ICT エキスパート派遣事業として遠山室員がプログラミング体験講座を実施しました。本講座には同校科学部の生徒 19 名が参加されました。

静岡県 ICT エキスパート派遣事業: 静岡県立静岡中央高等学校

2023 年 9 月 20 日に、静岡県立静岡中央高等学校にて、静岡県 ICT エキスパート派遣事

業として、遠山室員がプログラミング体験講座を実施しました。本講座では 2 回に分けて講座が実施され、合計で約 85 名の生徒さんが参加されました。

静岡大学・読売新聞連続市民講座 2023「社会を読み解く、社会を拓く」

2023 年 9 月 30 日に、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」にて、静岡大学・読売新聞連続市民講座 2023「社会を読み解く、社会を拓く」で、遠山室員が講演を行いました。本講座には 76 名が参加されました。遠山室員は「変革する情報教育 ～デジタル市民として期待されていること～」というタイトルで講演を行いました。

講演の概要は、2023 年 10 月 13 日 読売新聞朝刊 21 面「『静岡大・読売講座　詳報』 変革する情報教育～デジタル市民として期待されていること～」として掲載されました。

数理・データサイエンス講座での講演

2023 年 8 月 8 日に、静岡大学静岡キャンパスにて行われた、大学教育センター主催「やってみよう！実践的プログラミング 数理・データサイエンス講座」で遠山室員が講演を行いました。本会には県内各地から 14 名の生徒さんが参加されました。

静岡県教育委員会主催 令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践研修(基礎編)

2023 年 8 月 24 日に、静岡県総合教育センターにて行われた、静岡県教育委員会主催の「令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践研修(基礎編)」で遠山室員が講師を担当しました。本研修には 33 名が参加されました。遠山室員はクラウドと ICT を活用した授業実施の方法について基礎的な演習もまじえた研修を行いました。

静岡県教育委員会主催 令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践研修(発展編)

2023 年 8 月 24 日に、静岡県総合教育センターにて行われた、静岡県教育委員会主催の「令和 5 年度 GIGA スクール構想と ICT 機器を活用した授業実践研修(発展編)」で遠山室員が講師を担当しました。本研修はオンラインで配信され、33 名が参加されました。遠山室員はクラウドと ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの実現について、発展的な演習もまじえた研修を行いました。

文部科学省 学校 DX 戦略アドバイザー事業への協力

遠山室員は、文部科学省「学校 DX 戦略アドバイザー」として、プログラミング教育や情報教育、教育の情報化等について助言を行っています。

文部科学省 Web サイト　https://advisor.mext.go.jp

第 8 回天竜の未来を考える若者会議にて授業調査の成果を発表

2023 年 7 月 22 日(土)、フェスタ天竜で賑わう浜松市天竜区二俣で、第 8 回「天竜の未来を考える若者会議」（主催：天竜高校地域協働センター、コーディネート：天竜区役所まちづくり推進課、於：森のマルシェきころ 2 階）が開催され、情報社会学科の「フィールドリサーチ」（社会調査士科目）の金班の学生 5 名が、二俣で実施した授業調査の成果を発表しました。主催の天竜高校をはじめ、常葉大学、浜松学院大学、静岡文化芸術大学の学生等も発表しました。

天竜区二俣は、浜松市の平野部と山間部をつなぐ要所に位置し、長い歴史の中で文化を育んできたまちです。近年は、中山間地域の課題解決に向けた新たな取り組みも様々なされてきています。学生たちは、二俣での踏査とまちづくりに携わる新旧の世代の方々へのインタビュー調査を通して、中山間地域の課題解決につながるまちづくりについて考察した結果を発表しました。発表はご協力者をはじめ地域の方々がご聴取くださいました。ありがとうございました。当日の様子は中日新聞 7 月 27 日朝刊(浜松・遠州版)にも掲載されました。

情報学部生の発表の様子

静岡県立川根高等学校の魅力化向上

静岡大学情報学部永吉研究室等では、しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業の支援を受け 2018 年より静岡県立川根高等学校との連携プロジェクトを実施していますが、2023 年度も従前に引き続きこれを実施しました。

川根高校の生徒（川根本町出身者、川根留学生の双方）が川根本町を題材としたテーマに主体的に取り組み、地域・地域産業への理解（新発見、深化、地域愛）を促進することは、卒業後の自らの活躍の道を探索するきっかけとなるだけでなく、社会で活躍するための実践知を学び取るチャンスでもあります。また、このような地域の産・学・官が一体となったユニークな取り組みを行うことは、地域外への魅力発信にも有益であると考えます。さらに、最近の高校教育においては教科「情報」が必修化されただけでなく、その内容が将来社会で活躍するうえで必要とされる知識であることが広く認識されつつあります。このような認識のもと、本事業では静岡県立川根高校の生徒と静岡大学情報学部の学生とが共同で川根本町等で収集されたデータを統計手法を用いて分析しました。これを通じて、川根本町の現状・魅力・今後の可能性を発見したり、理解を深めたりすることによって、地域への愛着心を向上させるとともに、高校生が将来キャリアを考えるきっかけづくりとすることも狙いとしました。具体的には、川根高校における「情報」等の授業において、①川根本町に関するデータ(アンケート等により収集した定量・定性データなど）を、②コンピュータソフトウエア等を用いたデータ分析と考察により知見等を導出し、③発表会を実施しました。川根本町教育委員会などと連携する他、永吉研究室等所属の学生(6 名)が参加し、高校生向けの講義や討議、フィールドワークも実施しました。

（令和 5 年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業 静岡県立川根高等学校の魅力化向上 報告書 より抜粋）

最終発表会の様子

高校への出前講義（愛知県立知立東高等学校）

2023 年 8 月 16 日に、本学部の杉浦彰彦教授が愛知県立知立東高等学校で出前講義を実施しました。講義では、大学で学ぶ情報理論や符号理論の基礎になる考え方について、「符号化」を例に、高校生が理解できる範囲で説明しました。当日は、シミュレーションソフトを使った簡単な演習を行い、授業内容についての理解を深めてもらいました。さらに、画像や映像を様々な条件下で符号化したものを、実際に見くらべてもらうことで、理論の応用展開についても実感してもらいました。

講義の様子

浜松市楽器博物館における楽器の 3D モデル化と VR 空間における演奏体験支援プロジェクト

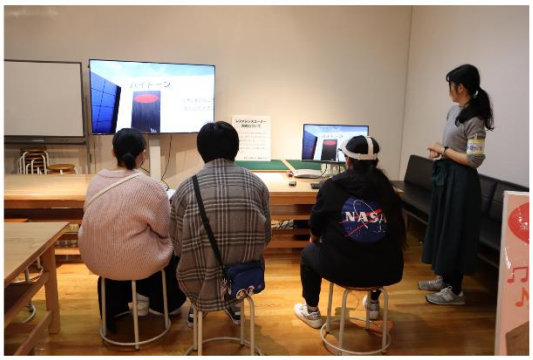
本プロジェクトは、浜松市楽器博物館と連携して、楽器の魅力をより伝えるため、浜松市楽器博物館にある貴重な楽器を 3D モデル化して、さらに、音収録、これらを使い、VR 空間における演奏体験システムを構築する事業です。今年度は、カホン、ジェンベ、テルミン、ガムランの 4 つの楽器の 3D モデル化を行い、さらに、カホンとジェンベの楽器を VR 空間上で演奏できる VR 楽器演奏体験システムを構築して、体験会を開催しました。

なお、本プロジェクトは令和 6 年度　静岡大学　地域連携応援プロジェクト「浜松市楽器博物館における楽器の 3D モデル化と VR 空間における演奏体験支援事業」（代表：杉山岳弘）採択事業です。また、先端情報学実習「地域資源情報のデジタル化と活用に関する研究」の一環でもあります。

新聞報道：

- 2023 年 11 月 24 日　中日新聞、VR 打楽器演奏しませんか ゴーグル着けリモコン手に
- 2023 年 11 月 25 日　静岡新聞、VR で楽器演奏体験 静大と浜松市の博物館

杉山岳弘研究室 Web ページ：https://www.sugilab.net/



浜松市楽器博物館での実験の様子

生成 AI を用いたかんざんじ温泉観光協会の情報発信支援プロジェクト

本プロジェクトは、情報学部杉山研究室と静岡県立大学湯瀬研究室と日本大学渡邉研究室の共同プロジェクトである「生成 AI を活用した浜名湖かんざんじ温泉観光協会における SNS による情報発信の仕組みづくり」です。浜名湖かんざんじ温泉観光協会の課題である SNS での情報発信に対して、生成 AI を活用して、ブログから複数の SNS の記事に変換して、情報発信の支援システムを構築しました。実際に導入して評価をし、より効率よく効果的に情報発信をできるよう改良を続けています。

新聞報道：

- 静岡新聞 2023 年 12 月 25 日　舘山寺の魅力手軽に発信 ブログから自動生成
- 静岡新聞 2024 年 1 月 16 日　静岡人インタビュー「この人」　生成 AI で舘山寺温泉観光協会の情報発信支援に取り組む　伊藤咲耶さん（浜松市中央区）
- 中日新聞 2024 年 2 月 20 日　舘山寺温泉 SNS 生成 AI にお任せ 静大と県立大、アプリ開発

杉山岳弘研究室の Web ページ：https://www.sugilab.net/

かんざんじ温泉観光協会での打ち合わせ

４．情報学部の地域連携科目

地域コミュニティ論/演習

本科目では、人間集団や社会・文化の成立、歴史と深く関わるコミュニティ概念について、社会科学の理論や方法を踏まえて学んでいます。日常に身近でありながら「遠い」存在にもなっている対象や場（災害、家族、地域社会、祭り、市民協働、NPO、職場）を取り上げ、その具体例を通してコミュニティをいかにデザインするかを考えていきます。その中で、地域コミュニティの実態を学ぶためにフィールドワークを行い、コミュニティの今日的課題を把握していきます。特に、浜松市市民協働センターや浜松まつり会館といった学外のフィールドに赴き、調査や観察を通して情報収集を行なっています。

情報・コミュニティ論/演習

情報・コミュニティ論では、情報という観点からコミュニティを考察することにより、近代以降の社会に現れた様々なコミュニティの理解を深めています。講義では、浜松市の外国人コミュニティや静岡県内の災害復興支援活動などを事例としながら、現代における地域課題の発見・分析に取り組んでいます。情報・コミュニティ演習では、地域連携推進室のアイデアソン・データソンと連携しながら、情報・コミュニティ論で扱った地域課題の分析・解決のためにオープンデータをどのように活用できるか（活用すべきか）について、グループワーク形式で考えています。

家族福祉政策論

本科目では、「福祉」概念を深く理解したうえで、生活者の視点からコミュニティをデザインをしていくために必要な視角と諸知識を学んでいます。毎回の授業では、児童福祉や高齢者福祉といった地域課題に取り組んできた実務家を講師やゲストとして招き、それぞれの経験に基づいた講義をしていただき、地域の福祉課題について学生に考えてもらっています。

フィールドリサーチ

本科目では、「社会調査法」等で学んだ諸技法を活かして、調査を企画・実施できる力を身につけるとととともに、調査対象者（協力者）に対する共感性を養うことを目標にしています。学生は、地域調査を実施し、行政、企業、地域・住民組織、NPO 等、さまざまな分野で活躍しておられる地域の方々にインタビューを行っていきます。近年は防災・災害対策をテーマに、聖隷浜松病院、静岡県浜松土木事務所、浜松市危機管理課等にご協力いただき、調査を実施しました。

博物館実習

博物館学芸員資格取得のための科目であり、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究、その他博物館学芸員の諸業務を実際に体験することで、理解を深めます。学内実習では、絵画、工芸品等の日本美術の作品を用い、その取り扱い、調査研究等について実習します。また学内における小展示を企画、実施します。見学実習では、7か所以上の博物館施設等の見学を実施し、うち2～3か所についてはバックヤードを含めた見学を行います。

インタビュー・スキルズ

この実習では、社会や地域の課題を社会調査を通じて理解し、情報の発信者としての視点や素養と、社会に対して情報発信していくための知識と技術を実践的に学びます。学生は、実社会の問題を取り上げて社会調査を行い、自らの問題意識に基づいて情報を構成し、メッセージを込めたメディア作品を制作していきます。近年は、浜松市内の建築・不動産会社、子どもと家族の支援活動をしている一般社団法人、飲食店、写真館などにインタビュー調査を実施して、ドキュメンタリー映像を作成しました。

知的情報システム開発

本科目の前半では、現在注目されている企業活動におけるデータ分析の活用と、データを活用した情報サービス構築の方法について学んでいます。企業の第一線で活躍されているプロフェッショナルから講話をいただいており、現状の成果、課題、新たな技術や応用の動向などについて知見を得ることができます。また、後半の授業では、ユーザ評価を中核とするデザイン思考型の情報サービス計画手法に関する講述に加えて、地域企業を訪問し、その企業の技術者を交えて運輸サービス提案の発表討論を実施しています。

情報学特別講義Ⅰ

本科目では、企業、行政、メディアなど、特に地域情報化の現場で生じている現象や課題を知り、それに応えるためにどのような形で情報学を深めるべきかについて理解を深めていきます。そのために、情報化の最前線に対応する企業や自治体で働く方々に、それぞれの現場の実態と課題をお話しいいただいています。近年は、静岡県を代表するメディアである静岡新聞・静岡放送の方々を講師としてお招きし、メディアの現場における業務の実態や課題について講義していただき、地域メディアの実態の意義と役割についての理解を深めています。

わが街・浜松の市政

全学教育科目の一つであるこの科目では、浜松市の職員を毎回講師に招き、浜松市の現状や課題、市の施策について学んでいきます。都市計画、産業、育児、防災、環境、多文化共生、行財政改革など、様々な分野において現場に携わっている方々の話を聴くことで、私たちの生活に密接に関わる地方行政の実際について理解を深めることができます。

地域社会と情報

全学教育科目の一つであるこの科目では、地域社会における情報の役割について、浜松市の事例を中心に学んでいます。授業では、企業、政府機関、自治体、社会福祉協議会、NPOといった様々な組織で働く専門家をゲストとしてお招きし、地域社会の中で情報がどのように生まれ、機能して、どう社会に役立っているか、また、様々な情報が社会や地域の人々の生活にどのように影響しているかについて講義していただいています。